

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-32	小学校	国語科	国語	第2学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	国語 205 国語 206	ひろがることば	小学国語	二上 二下

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法（第二条の第1～第5号）に示された「教育の目標」と、学習指導要領に示された「教科目標」の達成を目指し、以下の方針に基づいて編修しています。

- ・身近な言語活動を通して、幅広い知識と教養を身につけます。
- ・自己の価値を尊重し、創造性を培います。
- ・公共の精神に基づいた、主体的な社会参画を促します。
- ・自然の仕組みを題材にした教材を通して、生命を尊び、自然を大切にする心を育てます。
- ・国際社会の平和と発展に寄与するとともに、我が国の伝統文化を尊重する態度を養います。

楽しく学び、言葉の力がつく教科書

言葉を豊かに学ぶことは、学び手が**主体的に言葉に関わり**、**言葉の力を協働的に獲得**していく行為です。

主体的に学ぶためには、そこに学ぶ楽しさがあるはずで、**楽しみながら**、心を育て、世界観を広げられる、**価値ある題材**との出会いを大切にして教材を選びました。

また、言葉を学ぶことは、単に技術を学ぶことではありません。自己を主体的に築くための母語を獲得し、協働的に生きていく民主的人格が育まれるためにも、**言葉の学びは必要**なのです。

これからの社会を生きる子どもたちは、さまざまな課題に直面します。多くの情報があふれる現代社会において、**情報とどのようにつきあっていくか**、**社会をいかに持続可能なものとしていくか**、**多様な人々が自分らしく生きる権利をどのように守るのか**。学び手が学ぶ楽しさを感じながら、言葉の力を獲得していくことで、これらの課題を解決する力を自ら獲得できるよう、この教科書を編修しました。



豊かな言葉の学びに向けた編修の特色

◇当該学年の学びのストーリーを大事にした教材配列

教科書を使って1年間の学習をしていくことは、学習者にとって、1年間の「言葉の学び」という物語の中を生きることです。それぞれの物語どうしが、学校という、**他者との協働の場**でいかされるように、それぞれの単元が相互に関わるように並べることで、**学習の流れや必然性を大切**にして、各領域が自然に結びつ

くようにこころがけました。

◇課題の設定、解決・探究ができる学習過程の提示と、効果的な学びを生むための重点過程の明示

各単元や教材の冒頭で学習意欲の喚起を行い、学習のてびきは、深い学びへと導くことを意識して構成しています。単元を通じて、学び手が、より能動的・探究的な学びができるような活動の流れをつくりました。

また、話す・聞く、書く教材においては、特に重点としたい学習過程を明示し、その単元の学びにおいてつきたい力がわかるようにしました。これにより学習指導の効率化が図れ、学習者にとっての効果的な学びを実現します。

◇思考力、判断力、表現力等と、それを支える知識及び技能の有機的な結合

領域の学習内容を豊かに学ぶための言語活動を、より活性化するための知識・技能を、単元間の小教材や付録で示しました。また、思考を整理したり、まとめたり、可視化したりするためのふせんやカード、ノートを使い方など、学習のツールを多く例示しました。

◇豊かな言葉の基礎となる読書教材、語彙教材の拡充

豊かな言葉の学習は、さまざまな本を読み、多様な言葉にふれることで広がります。各単元の学習から読書体験へとつながるよう、幅広いジャンルを対象として、紹介図書を充実させました。

また、日常の言語生活や他教科の学習での使用に資するよう、語彙を豊かにするための工夫もしています。

教材の選定について

◇日常の学習に活用

⇒ 『つづけて みよう ――日記――』 (二上)

『声の ものさしを つかおう』 (二上)

◇主体的な調べ学習、メディアリテラシー (ICT)

⇒ 『図書館で 本を さがそう』 (二上)

『この間に何があった?』 (二上)

◇地域に根ざす

⇒ 『町の「すてき」をつたえます』 (二上)

◇生き方を問う (人権)

⇒ 『きつねの おきゃくさま』 (二上)

『わにのおじいさんのたからもの』 (二上)

『ないた赤おに』 (二下)

『アレクサンドとぜんまいねずみ』 (二下)

◇持続可能な開発のための教育 (ESD)

⇒ 『すみれと あり』 (二上)

『さけが大きくなるまで』 (二下)

◇言語文化

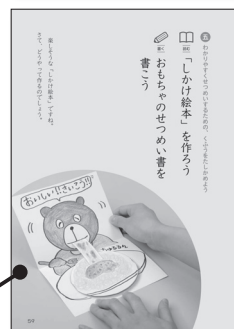
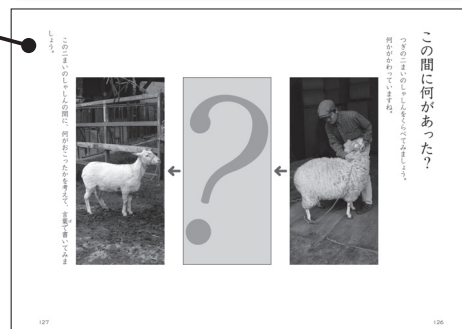
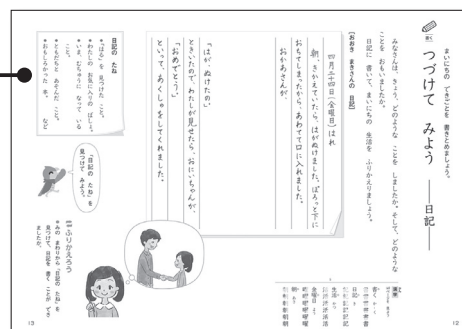
⇒ 『「言葉あそび」を しよう』 (二上)

『むかしのあそび』 (二下)

◇複数領域融合単元

⇒ 『本で しらべて しょうかいしよう』 (二上)

『わかりやすくせつめいするための、くふうをたしかめよう』 (二下)



2. 教育基本法との対照表

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
知識・技能	言語・情報 ■二下 おもちゃのせつめい書を書こう	『おもちゃのせつめい書を書こう』は、他教科で作成したおもちゃの説明書を書く活動で、材料や手順を思い出し、構成を考えて書くことで、情報の扱い方を知り、幅広い知識と教養の獲得に向けた基礎的な作業に楽しく取り組む。〈第1号〉	下 P70-73
	言語文化 ■二上 漢字の ひろば ① 画と書きじゅん／「言葉あそび」をしよう／かたかなで書く言葉／図書館で本をさがそう／漢字の ひろば ② なかまの言葉と漢字／うれしくなる言葉／いなばのしろうさぎ／「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう／漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉／はなたいのいみの言葉、にたいみの言葉 ■二下 「お話びじゅつかん」を作ろう／漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方／むかしのあそび／主語とじゅつ語／漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字／音や様子をあらわす言葉／漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字／2年生で読みたい本／言葉の木／言葉のまとめ／気をつけて書くところ／ちゅういする書き方／グループで読もう／漢字を学ぼう／二上までに学んだ漢字／「ここが大事」のまとめ／学ぶときにつかう言葉	<ul style="list-style-type: none"> ●『うれしくなる言葉』は、相手の価値を尊重し、相手を評価する語彙を増やすことがコミュニケーションをするうえで大切であることから、言葉をかけられてうれしかった経験を紹介し合うことで、語彙の拡充を図る。〈第2号〉また、情操・道徳心の育成にも通ずる。〈第1号〉 ●『漢字のひろば ① 画と書きじゅん』『かたかなで書く言葉』『漢字のひろば ② なかまの言葉と漢字』『漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉』『漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方』『漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字』『漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字』は、漢字を覚え、正しく読んだり書いたりできるようにする。〈第1号〉 ●『いなばのしろうさぎ』は福永武彦による再話として『古事記』から採り、読み聞かせ教材として位置づけて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する心を育てる。〈第5号〉 ●『図書館で本をさがそう』は図書館の利用の仕方を取り上げた。図書館は、「みんなの使うところだから、ルールに従って使わなければならない」という公共性が求められる身近な場所の一つである。学年の初めに取り上げ、図書館を利用するという設定で入門的教材を配した。図書館の機能を理解させるとともに、図書館を利用する習慣を培うための大切な教材である。〈第1号〉 ●『「お話びじゅつかん」を作ろう』は、読んだお話の中で印象に残った場面を絵に描いて紹介し合う。読書を通じて幅広い知識と教養を身につける。〈第1号〉 ●『2年生で読みたい本』は、昔のお話に重点を置いて図書を紹介する。昔のお話を読むことで伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養う。〈第5号〉 	上 P38-40, P50-51, P52-53, P54-57, P62-63, P64-68, P86-87, P91-93, P96-98, P116-117 下 P46-49, P56-58, P96-97, P100-101, P102-103, P110-111, P112-114, P144-164
思考・判断・表現	話す・聞く ■二上 声のものをさしをつかおう ひろい公園 話したいな、聞きたいな、夏休みのこと ■二下 「クラスお楽しみ会」をひらこう むかしのあそびをせつめいしよう	<ul style="list-style-type: none"> ●『声のものをさしをつかおう』は、コミュニケーションは自他の敬愛・協力の基本であることから、「話すこと・聞くこと」の題材として、学年の初めにあたって「声のものをさし」を意識して、単に物理的な音量の調整ではなく、話したり聞いたりする時や場面、相手を考えて交流するよう促している。〈第3号〉 ●『話したいな、聞きたいな、夏休みのこと』は夏休みにあったできごとを順序を考えてクラスの皆の前で話す活動である。家族でキャンプに行ったことを話題とし、自然を大切にする態度に通ずる。〈第4号〉 ●『「クラスお楽しみ会」をひらこう』では、クラスお楽しみ会でする遊びを決めるために話し合いを設定している。相互の考えを比べたり、合わせたりして、一つにまとめていくことを通して、自他の敬愛や集団意識を形成し、社会性を育成する。〈第3号〉 ●『むかしのあそびをせつめいしよう』では、昔から伝わる遊びの遊び方を順序に気をつけて説明する。伝統と文化を尊重する態度を育てる。〈第5号〉 	上 P14-16, P34-37, P94-95 下 P50-53, P98-99

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
書く	<p>■二上 つづけて みよう ――日記―― 「生きものクイズ」を作ろう 「かんざつ発見カード」を書こう 町の「すてき」をつたえます</p> <p>■二下 おもしろいもの、見つけたよ みじかい言葉で おもちゃのせつめい書を書こう こんなことができるようになったよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●『「生きものクイズ」を作ろう』は、生命や自然への関心をもたせるためにクイズ形式にした。(第4号) ●『町の「すてき」をつたえます』は、生活科との関連を図り、町探検を題材にした、報告文を書く活動である。図書館で聞いたことや見つけたことを文章に書く。取材や構成について学習し、自主性や勤労観の初歩的な共感を養うものである。(第2号) ●『こんなことができるようになったよ』は、2年生の一年間を振り返って、自分の成長を価値付ける学習をさせるとともに、学校生活や地域での活動など、幅広く社会との関わりを思い起したことを書く活動である。書くことと、書いたあとの交流も意識させる。(第3号) 	<p>上 P12-13, P58-61, P88-90, P118-124</p> <p>下 P18-21, P54-55, P70-73, P104-109</p>
	<p>■二上 ちいさい おおきい 「えいっ」 すみれと あり きつねの おきゃくさま わにのおじいさんのたからもの この間に何があった？ いなばの しろうさぎ 『この間に何があった？』の 答え</p> <p>■二下 さげが大きくなるまで てんとうむし 木 ないた赤おに 「しかけ絵本」を作ろう せかいじゅうの海が かさこじぞう アレクサンダとぜんまいねずみ かまわずどんどん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●『ちいさい おおきい』は、友達と声を出し合い、聞き合いながら、豊かな情操を育てる教材として、学年の導入単元において鑑賞詩である。音数律や繰り返しによる日本語の特徴的なリズムを味わわせたい。(第5号) ●『「えいっ」』は、文学教材の最初の読解単元で、くまの親子の遊び心あふれるコミュニケーションが描かれた物語である。くまの子が、父親への素直な驚きや尊敬から、小さな遊びの秘密に気づいていく様子を読むことで、心理を見抜く目と豊かな情操を養う。(第1号) ●『きつねの おきゃくさま』は、信頼される喜びが性格や行動を変えていく物語である。情操・道徳性を養う。(第1号) また、「正義と責任」に通じる主題をもつ。(第3号) ●『わにのおじいさんのたからもの』は、鬼の子がわにのおじいさんから託された地図で宝のある場所にたどり着くが、そこで見たすばらしい夕焼けが宝物だと思って感動する物語である。物欲にとらわれない「宝物」に共感を覚え、高い道徳性を感得させる。(第1号) ●『すみれと あり』は、自然界の共生のあり方の一つを説き明かす内容で構成されている。論理的な文章のつながりを読みながら、自然への知識や、子どもの探究心を喚起する教材として設定した。植物と昆虫との共生の関係を微小な世界から説き明かし、大自然の妙ともいえる内容に、子どもの知的好奇心を喚起し、自然環境に目を向けさせるものととらえている。(第4号) また、「幅広い知識・真理を求める態度」にも通ずる。(第1号) ●『この間に何があった？』は、一連の写真のうち、間の一枚を抜いた写真を見て、その間に何が起きたかを想像させる、写真から読解する教材である。付録には答えとなる写真を掲載している。真理を求める態度を養い、豊かな情操を培う。(第1号) ●『ないた赤おに』は、濱田廣介による創作童話でありながら、すでに民話的な評価もある作品である。上巻の『わにのおじいさんのたからもの』に続き、心優しい鬼を描いた作品で、赤鬼と青鬼との深い友情が語られ、「正義とは何か」「責任とは何か」「友への敬愛とは何か」などを考えさせる物語である。豊かな情操と道徳心を育てる。(第1号) また、「個人の価値の尊重」(第2号) や、「伝統と文化の尊重」にも通じる。(第5号) ●『かさこじぞう』は、大晦日の夜、雪にさらされた地蔵を気の毒に思って笠を被せた心の優しいおじいさんのもとに、地蔵がお礼に来る民話である。豊かな情操を養う。(第1号) また、勤労を重んずる態度を養う。(第2号) ●『アレクサンダとぜんまいねずみ』は、ねずみとおもちゃのねずみの友情を描いた物語である。自他の敬愛と協力を重んずる心を育てる。(第3号) ●『せかいじゅうの海が』は、友達と声を出し合い、聞き合いながら、豊かな情操を育てる翻訳詩である。他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる。(第5号) ●『さげが大きくなるまで』は、順序性に気をつけて読みながら、知識を獲得し真理を追究する内容の教材である。川で生まれ、大海へ出、成長して、また産卵のためにふるさとの川に戻ってくる鮭の生態を素材に、生命の壮大な営みに目を向けさせる。(第4号) ●『「しかけ絵本」を作ろう』は、しかけ絵本の制作過程を正しく理解し、真理を追究し、論理的な思考力を育成するため、作り方の説明を読んだのち、自分でお話を考えて、しかけの効果を生かした自分の絵本を作る学習である。「読むこと」から「書くこと」の領域に続く学習活動ができる。(第1号) 	<p>上 P8-11, P18-33, P42-49, P70-85, P100-115, P126-133, P134-137, P138-139</p> <p>下 P6-17, P22-23, P24, P25-45, P60-69, P74-76, P78-95, P116-133, P136-143</p>
思考・判断・表現	読む		

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法に示された義務教育の目的や、学校教育法に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

ユニバーサルデザインへの配慮

学びに向かう力を大切に、できるだけ図や表、写真や絵を用いて、学習内容が端的につかめるように教材の構成や紙面をデザインしています。

◇特別支援

特別支援が必要な学習者への配慮として、全体を通しての統一感や一体感、読みやすさ、わかりやすさを意識したレイアウト、安心感と安定感のある色づかい、トーンバランスを心がけ、フォントには、ユニバーサルデザインに配慮した、新しい教科書体を使用しています。

◇カラーユニバーサル

色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫により、全ての児童にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

◇多様性への理解・パラリンアート

社会の多様性にふれ、さまざまな人々と共存・共生しているという実感を得られるような教材を選ぶとともに、障がいのある人が描いた作品（障がい者アート）を教科書に掲載することにより支援する、「パラリンアート」の活動にも取り組んでいます。

◇地球となかよし

教科書の印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。

◇分冊による軽量化

子どもの身体の発達状況を考慮して、全学年を分冊とし、1冊あたりの重量が軽い教科書にしています。分冊としたことにより、全体のページを増やし、単元とびらやてびき、付録を充実させています。

他教科との連携

◇教科間の連携

低学年では、生活科とカリキュラムを共有できるような構成を意識しました。

*学習する内容の連携

同じ教材や題材、学習内容を、他教科と連携して扱えるような工夫をしています。

- ・「生きものクイズ」の作成（＝生活・理科）
- ・「かんさつ発見カード」の作成（＝生活・理科）
- ・おもちゃの説明書の作成（＝生活）

*教科を横断したテーマの設定

学習指導要領で重視されているテーマを、教科横断的に扱えるようにしています。

*育てたい資質・能力の連携

各教科で扱える以下のような資質・能力を、教科書の中で育めるように意識しました。

- ①言葉で表す力（言語的リテラシー）
- ②自ら考える力（論理的思考力・問題発見解決能力・メタ認知力）
- ③共に学ぶ力（人間関係形成力）

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-32	小学校	国語科	国語	第2学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	国語 205 国語 206	ひろがることば	小学国語	二上 二下

1. 編修上特に意を用いた点や特色

言葉による「見方・考え方」を豊かに育み、意味ある言語活動を通して、言葉の力としての「資質・能力」を身につけていくため、学習指導要領の各内容を最大限に生かす単元、およびその学習過程を設定し、次のような、学び手や教師が手に取って使いたくなるような教科書となることを目指しました。

- ・何をどのように学び、何ができるようになったのかがわかる教科書
- ・主体的・対話的な学びを促す言語活動を通して、深い学びを実現する教科書
- ・言葉を学ぶことの楽しさを実感できる教科書
- ・感動する教材と出会い、言葉に対する感性を磨くことができる教科書
- ・現代社会の今日的課題と同期する教科書
- ・優れた言語文化にふれて、日本人としての豊かな心を育む教科書

単元構成

・教科書全体を、形式を整えることにとらわれることなく、**学習の目標と活動が最大限にいきるような構成**にしました。

・各教材の特性を生かすため、**単独の教材で単元**にしたり、**複数教材を組み合わせて領域融合的な単元**としたりして、多様な単元の構成としました。

⇒ 『「えいっ!」』(二上)・『かさこじぞう』(二下)

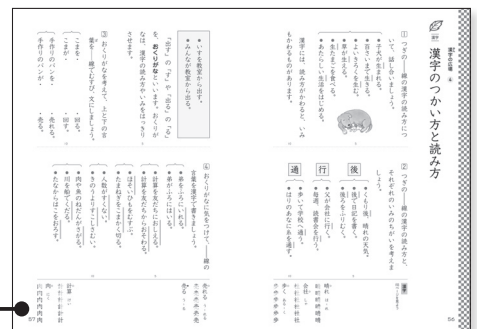
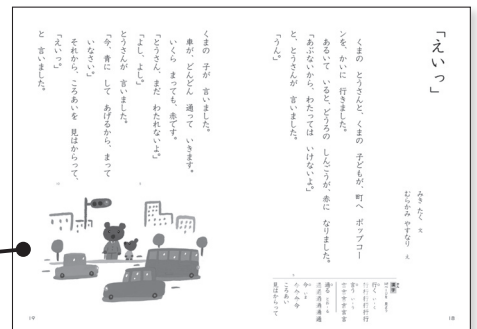
⇒ 『本で しらべて しょうかいしよう』(二上)

『わかりやすくせつめいするための、くふうをたしかめよう』(二下)

・学習の流れを踏まえ、**知識・技能の向上に活用**できるよう、単元と単元の間に小単元的な教材を配置しました。

⇒ 『「言葉のなかまさがしゲーム」を しよう』(二上)

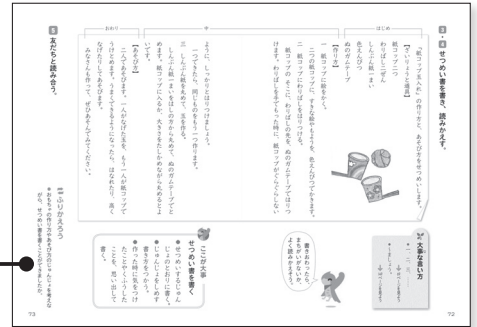
『漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方』(二下)



- ・各学校でのカリキュラム・マネジメントに資するよう、柔軟に扱える教材を配しました。
⇒『つづけて みよう ―日記―』(二上)
『ノートに 文を うつす』(二上)

単元内容

- ・学習過程を明確にした教材を配置するとともに、**重点的に扱う学習の過程を設定して**、知識・技能を効率よく学べるようにしました。その一方で、学んだ知識や技能が、**生活のさまざまな場面で生きて働く力**となるための配慮も行っています。
⇒『「しかけ絵本」を作ろう (学習のてびき)』(二下)
『おもちゃのせつめい書を書こう』(二下)



- ・多様で活発な言語活動で、「言葉の力」を高めることができるように配慮しました。
⇒『ひろい 公園』(二上)

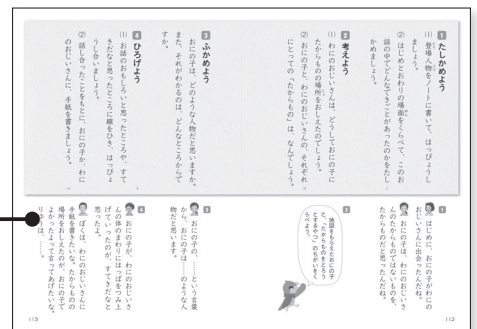


- ・確実に身につけたい「言葉の力」については、各教材の「**ここが大事**」に端的にまとめています。

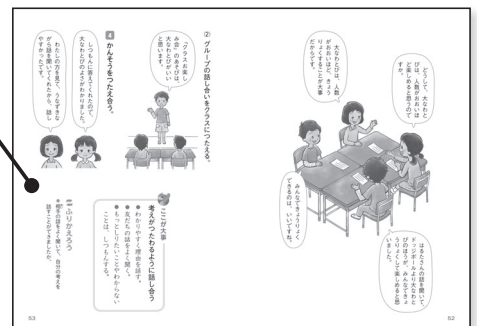
主体的・対話的で深い学びのために

- ・学習者が主体的に学習に取り組み、また自学もできるように、**学習の課題をわかりやすく可視化する工夫**を取り入れました。

- ・「学習のてびき」では、身につけたい言葉の力に対して**適切な言語活動**を設定するとともに、言語活動そのものが、**自ら課題を見つけ、それを解決する過程**となり、深い学びに結びつくことを意識して構成しています。
⇒『わにのおじいさんのたからもの (学習のてびき)』(二上)



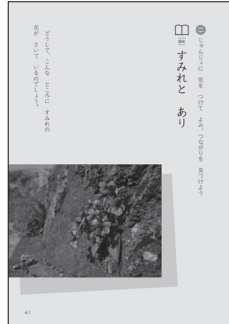
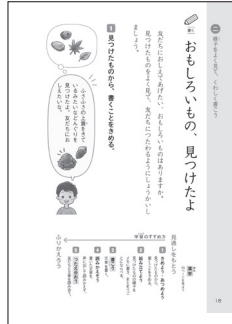
- ・親しみやすいキャラクター等を用いて、**学習者の思考の深まりを支援し、主体的、対話的な学びへの道筋**をつけています。



見通しをもったり、振り返ったりするために

・教科書巻頭の「二年生で学ぶこと」と学年末の「国語の学習 これまで これから」により、1年間の学びの見通しと振り返りができるようにしています。

・「単元とびら」により、学習への意欲を喚起し、その単元に積極的に取り組もうとする姿勢を促します。



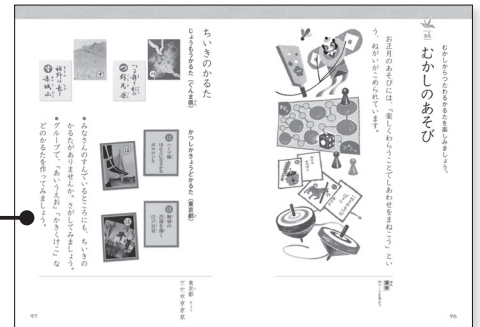
言語文化を継承し、担い手になっていくために

・日常生活の中で、言語文化を意識したり、見直したりできるように配慮しました。

⇒『「言葉あそび」をしよう』(二上)
『いなばのしろうさぎ』(二上)
『むかしのあそび』(二下)

・言語文化をただ受け取るだけでなく、その担い手となる自覚をもてるように活動的教材を配しました。

⇒『みじかい言葉で』(二下)



語彙を増やし、情報を適切に扱う

・語彙を質、量ともに充実させる教材を拡充しました。また、情報の扱い方に関する教材を配置しています。

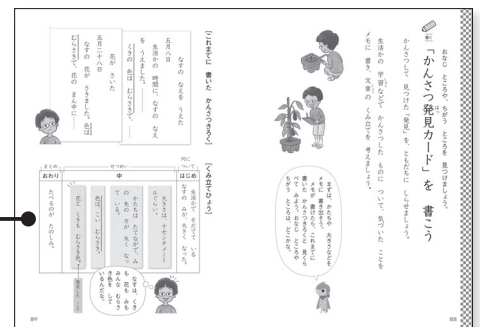
⇒『言葉の木』(二上下)・『言葉のまとめ』(二上下)

他教科との関連、基礎教科としての位置づけ

・国語は言葉の働きについて学ぶ教科であるということを意識して、全ての教科の基礎となる言葉の知識・技能を明確に示しました。

・他教科の学習との関連にも配慮しています。

⇒『「かんざつ発見カード」を書こう』(二上)
『おもちゃのせつめい書を書こう』(二下)



・調べ学習など、他教科への学習の広がりを意図した教材も配置しました。

⇒『図書館で本をさがそう』(二上)

2. 対照表

教材名	学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間
	知識・技能	思考・判断・表現		
二上				
ことばと であおう ちいさい おおきい つづけて みよう 一日記一	(1)ク (1)ウ	C(1)エ C(2)イ B(1)ア B(2)イ	P8-11 P12-13	2 4 (書<4)
声の ものさしを つかおう	(1)イ	A(1)ウ A(2)ア	P14-16	3 (話聞3)
一 どうじょう人物の した ことに 気を つけて よもう 「えいっ」	(1)ク	A(1)ウ, エ A(2)ア C(1)イ, エ C(2)イ	P18-33	13(話聞3)
ひろい 公園	(2)ア	A(1)エ A(2)イ	P34-37	2 (話聞2)
漢字の ひろば ① 画と 書きじゆん	(1)エ		P38-39	2
一年生で 学んだ 漢字 ①	(1)エ	B(1)ア B(2)ア	P40	2 (書<2)
二 じゆんじよに 気を つけて よみ, つながりを見 つけよう すみれと あり	(2)ア	B(1)ウ B(2)ア C(1)ア, ウ C(2)ア	P42-49	13(書<3)
「言葉あそび」を しよう	(1)ク (3)イ		P50-51	2
かたかなで 書く 言葉	(1)ウ		P52-53	3
三 本で しらべて しょうかいしよう 図書館で 本を さがそう 「生きものクイズ」を 作ろう	(3)エ (1)オ (2)ア	C(1)ウ C(2)ウ B(1)ア, イ, ウ B(2)ア	P54-57 P58-61	2 6 (書<6)
漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	(1)エ		P62-63	2
うれしく なる 言葉	(1)ア	A(1)ウ A(2)イ	P64-68	4 (話聞2)
四 くりかえしに 気を つけて, どうじょう人物の 様 子を 読もう きつねの おきゃくさま	(1)ク	B(1)ア, オ B(2)ウ C(1)エ, オ C(2)イ	P70-85	15 (書<3)
いなばの しろうさぎ	(3)ア		P86-87	5
「かんざつ発見カード」を 書こう	(1)カ	B(1)イ B(2)ア	P88-90	4 (書<4)
「言葉のなかまさがしゲーム」を しよう	(1)オ		P91-93	2
話したいな, 聞きたいな, 夏休みのこと	(1)イ	A(1)イ A(2)ア	P94-95	5 (話聞5)
漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	(1)エ		P96-97	2
一年生で学んだ漢字 ②	(1)カ	B(1)ウ B(2)ア	P98	2 (書<2)
五 したことや言ったことから, 登場人物の考えを読もう わにのおじいさんのたからもの	(1)ア	B(1)イ, ウ B(2)ウ C(1)エ, オ C(2)イ	P100-115	12 (書<4)
はんたいのいみの言葉, にたいみの言葉	(1)オ		P116-117	2
六 まとまりを考えて書こう 町の「すてき」をつたえます	(1)ウ	B(1)イ, ウ, エ B(2)ア	P118-124	11 (書<11)
七 しゃしんをくらべて, 考えよう この間に何があった?	(2)ア	B(1)イ B(2)ウ C(1)ア, オ C(2)ウ	P126-133	2 (書<1)
二下				
一 じゆんじよや様子に気をつけて読もう さげが大きくなるまで	(2)ア	A(1)ア A(2)ア C(1)ウ, オ C(2)ア	P6-17	11 (話聞3)
二 様子をよく見て, くわしく書こう おもしろいもの, 見つけたよ	(1)オ	B(1)ウ, オ B(2)ア	P18-21	10 (書<10)

◆しを読もう てんとうむし 木	(1)オ	C(1)エ C(2)イ	P22-24	2
三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう ないた赤おに 「お話しじゅつかん」を作ろう	(1)ク (3)エ	C(1)エ, オ C(2)イ C(1)オ, カ C(2)ウ	P26-45 P46-49	7 5
四 しつもんしたり答えたりして、話し合おう 「クラスお楽しみ会」をひらこう	(2)ア	A(1)オ A(2)イ	P50-53	8 (話聞8)
みじかい言葉で	(1)ア	B(1)ウ B(2)イ	P54-55	5 (書<5)
漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	(1)エ		P56-57	2
一年生で学んだ漢字 ③	(1)エ	B(1)ウ B(2)ウ	P58	2 (書<2)
五 わかりやすくせつめいするための、くふうをたしかめ よう 「しかけ絵本」を作ろう	(1)ア	B(1)ア, イ, ウ B(2)ア C(1)ア, ウ C(2)ア	P60-69	12 (書<3)
おもちゃのせつめい書を書こう	(2)ア	B(1)ウ, エ B(2)ア	P70-73	7 (書<7)
◆しを読もう せかいじゅうの海が	(1)オ	C(1)カ C(2)イ	P74-76	2
六 場面や人物の様子をくわしく読もう かさこじぞう	(1)ク	A(1)ウ, エ A(2)ア C(1)エ, カ C(2)イ	P78-95	11 (話聞3)
むかしのあそび	(3)イ		P96-97	3
むかしのあそびをせつめいしよう	(1)イ	A(1)イ, A(2)ア	P98-99	4 (話聞4)
主語とじゅつ語	(1)カ		P100-101	3
漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	(1)エ		P102-103	2
七 じゅんじょに気をつけて書こう こんなことができるようになったよ	(1)ウ	B(1)ウ, エ, オ B(2)ア	P104-109	13 (書<13)
音や様子をあらわす言葉	(1)オ		P110-111	3
漢字の広場 ⑥ 組み合わせてできている漢字	(1)エ		P112-113	2
一年生で学んだ漢字 ④	(1)エ	B(1)ウ B(2)ウ	P114	2 (書<2)
八 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう アレクサンダとぜんまいねずみ	(1)ア	B(1)イ B(2)ア C(1)オ, カ C(2)イ	P116-133	16 (書<4)
国語の学習 これまで これから	(1)カ	A(1)エ A(2)ア B(1)ア B(2) ア	P134-135	2 (話聞1, 書<1)